

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 富山市立光陽小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒939-8211

富山市二口町1丁目4番地1

E-mail kouyo-es@tym.ed.jp

Website <http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/index.php?id=toyama023>

幼児児童生徒数 男子 306 名 女子 265 名 合計 571 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

当校は、重点目標『本気でチャレンジ「ありがとう」でつながる光陽っ子』として、ESDを「対象に心をよせ、未来につながるように考え、行動しようとする子供の育成」として捉え、ESDの実践を通して立ち止まって考える思考力、自ら「つなぐ」行動力、思いを伝え切る表現力の育成を目標とした。

具体的には、総合的な学習の時間、生活科、教科の学習、縦割り活動を柱に①「地域」に関わる学習、②「福祉」に関わる学習、③「環境」に関わる学習、④「共生」に関わる学習、⑤自分事として捉え、主体的・協働的に学ぶ体験活動、⑥多様性の認め合い、関わり合いを重視する縦割り活動を行った。

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

①「地域」に関わる学習

光陽校区の住民の一人として地域について知り、人との関わりや社会とのつながりについて考えた。(第2学年生活科、第3学年総合的な学習の時間)

②「福祉」に関わる学習

身の周りのユニバーサルデザインについて知り、みんなが幸せに暮らすことのできる社会をどのようにしてつくっていくかを考えた。(第5学年総合的な学習の時間)

③「環境」に関わる学習

地球温暖化について知り、その防止に向けた活動に取り組んだ。そして、今の生活をどのようにしてすれば地球を救うことができるのか考えた。(第4学年総合的な学習の時間)

④「共生」に関わる学習

人や生き物と積極的に関わることを通して、その違いや共通点について考え、よさを認めようとする態度を育てた。また、共に生きる仲間としてその関わりやつながりをどのようにしていけばよいかを考えた。

⑤自分事として捉え、主体的・協働的に学ぶ体験活動

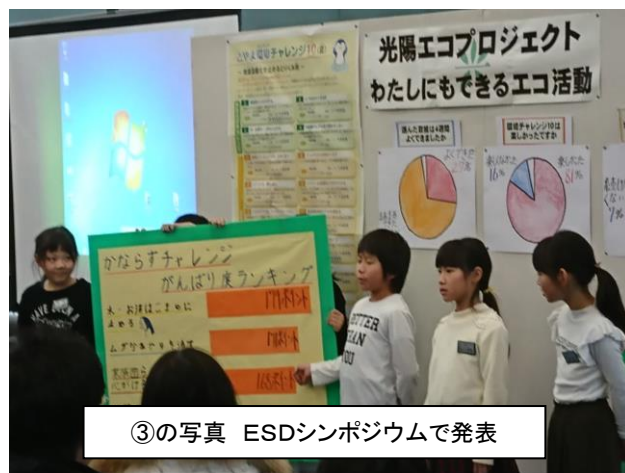
体育科研修推進の2年目として、研究主題「個の力を高め、学び合う学校の創造」を掲げ、動きの高まりを目指し、仲間と共に主体的に運動に取り組む子供の育成と仲間と関わりながら、健康で安全な生活を理解し、進んで実践しようとする子供の育成に取り組んだ。

⑥多様性の認め合い、関わり合いを重視する縦割り活動

児童会スローガン「本気でチャレンジ 手を取りあって つながる心 みんなが輝く光陽っ子」を目指して、1年から6年生までの縦割りグループをつくり、1年間継続的に縦割りグループによる様々な活動を展開した。



①の写真 地域の方から光陽小誕生のお話を聞く



③の写真 ESDシンポジウムで発表



⑤の写真 チームでハドルをする子供



⑥の写真 縦割り班の顔合わせ

(2) 活動の詳細

① 活動内容

・「地域」に関わる学習

第3学年の総合的な学習の時間は、「光陽のむかし、今、そして未来」をテーマに光陽校区や光陽小学校の昔のことや今の様子を調べ比較するなどして、これからの光陽小学校について考える学習に取り組んだ。

光陽校区の45年前と10年前の航空写真を比べ、光陽校区が「なぜ店が立ち並び、交通量の多い校区になったのか。創立16年目を迎えた光陽小学校がどのようにして建てられるようになったのか。」について校区探検や地域の方への聞き取り、新聞記事や資料などから調べ活動を行った。そして、光陽校区の今の様子を調べ、これからの光陽小学校をどのような学校にしていきたいかを考えた。

・「福祉」に関わる学習

第5学年の総合的な学習の時間は、「広げよう心のバリアフリー」をテーマに、身の周りにあるユニバーサルデザインについて調べたり、バリアフリーのために自分ができることを考えたりした。

・「環境」に関わる学習

第4学年の総合的な学習の時間は、「光陽エコプロジェクト～未来をつくる、未来をかえる～」をテーマに地球温暖化防止活動である「環境チャレンジ10」に取り組んだ。そして、取組を振り返り、その問題点や今の生活を見つめ、未来を変えるためには、生活をどのように工夫したらよいかを考えた。

・「共生」に関わる学習

第1学年では、生活科で「なかよし いっぱい 1年生」をテーマに学校を探検したり、学校の周りを歩いたり、公園に行って遊んだり、アサガオを栽培したりして、人や生き物との関わりからそのつながりについて学習した。

第2学年の生活科では、「元気・やる気・本気」をテーマに光陽校区を探検してすてきを見付けたり、野菜を育てたり、生き物を採集したりして、対象とのつながりを深めた。

第6学年の総合的な学習の時間では、「共に生きる」をテーマに世界の国々について国際協力に携わった人の話を聞いたり、インターネットや本で調べたりした。そして、今の自分にできることを考え、身近な生活を見直し、ボランティア活動にユネスコ、ユニセフの活動に参加した。

・自分事として捉え、主体的・協働的に学ぶ体験活動

第1学年では、表現遊び領域で「うごいて にこりん！ いっしょに にこりん！～うみランドのいきものになっちゃおう～」の実践、第5学年では、保健領域「心も体も健康に！心晴れ晴れでいこう」の実践、第6学年では、ボール運動領域で「前へつなげ！みんなで攻めろ！熱中ハンドボールの実践等を行った。

どの学年、どの領域においても「わかる」「できる」を実感することで、自信をもち、互いのよさを見付けたり感じたりする話合いによって個の力を高めようとする主体的・協働的な学習のよさが見られた。

・多様性の認め合い、関わり合いを重視する縦割り活動

児童会が中心となり、縦割りプランターの花植え、児童集会での縦割りゲーム、縦割り遠足など縦割り活動を推進した。子供は仲間との関わりを楽しみにしたり、リーダーとしての意識を高めたりしながら活動し、よりよい心のつながりを生んだ。

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 縦割り活動)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none"> ・「地球にやさしい未来を、みんなで地球教室 基礎編、応用・研究編」発行 朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会 ・「とやま環境チャレンジ10」パンフレット とやま環境財団
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

研究主題「個の力を高め、学び合う学校の創造」を掲げ、ESDを通じて授業や日常生活等に、「ESD的な学びの積み上げ」として、三つの力、思いを伝える表現力、進んで関わる行動力、じっくり考える思考力を意識し関連付けてきた。そうした中で、学ぶべき内容を明確にし個の力を高める手立てや、仲間の言動や考え方に興味をもち、視野を広げて自らの歩みを見直していく手立てを模索してきた。

生活科や総合的な学習の時間を中心として、ESDに関わるテーマを学年毎に決めて学習している。また、それに関わる教科横断的な指導計画のためにESDカレンダーを作成した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌にESDがあり、ESDに関わる活動を組織的に取り組む体制は整っている。また、毎年富山県のユネスコスクールが互いの取組を発表するESDシンポジウムに参加し、その年の取組を発表している。また、ESD公開校内研修会を実施し、講師の先生や他校の先生方を招待し、共にESDについて研修をすることを継続して行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内では、教育計画評価を全職員で行い、Aよかった点、B課題・改善点などを書いた。職員の意見を集約し、校務分掌の担当者から来年度の方向性について改善案等を作成した。

ボランティア委員会をユネスコ委員会と名前を変更したことで、ボランティアだけではない視点で、少し活動が広がった。縦割り活動では、異学年での交流が深まり、心の高まりが見られた。

今後は、縦割り活動の年間指導計画への位置付けの改善やESDカレンダーによって、ESDとの関わりを意識して教科単元の学習に取り組むことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD公開校内研修会を学習参観と併せて行うことにより、アンケートにより保護者の方から意見を集めた。学習参観で本校のESDの取組を発信することで、ユネスコスクールであることが周知された。また、エコキップ・アルミ缶回収など、保護者からの協力も継続している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ESDシンポジウムに参加することで、学校以外の団体の発表を見たり聞いたりする機会となっている。その他教員がESD活動支援センターの主催する研修会に参加し、ESDについて研修した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

富山県ESDシンポジウムで他校のESDの取組の発表を見たり聞いたりする交流をした。また、富山県のユネスコスクールは、ESD公開研修会を開催し、ユネスコスクール間で教員が互いの授業研究に参加することで、ESDの授業について研修した。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

「本気」「つながる」という言葉をキーワードとし、それらを意識しながら日々の教育活動を進めていくことは、指導の仕方に一貫性をもたせることができた。また、子供たちの中にも浸透しやすく、全校がまとまっていく実感を味わうことができた。職員が常に重点目標「重点目標『本気でチャレンジ「ありがとう」でつながる光陽っ子』を理解し、各種行事等に臨み、スローガンにはいつもキーワードが入り、具体化される取組がたくさんあった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

学校の重点目標のもと、「みんなのふるさと光陽小をきずこう ～100年先ののこしたいもの～」をテーマにESDの指導を計画する。

ESD的な学びの積み上げにより、立ち止まって考える思考力、自ら「つながり」行動力、思いを伝え切る表現力を高める。そして、協働的な活動や体験的な活動を経験することを通して、対象（人、もの、こと）に心をよせ、自分事として捉えて主体的・協働的に学ぶようにする。また、授業や様々な行事において、関わり合いを重視し、「その子らしさ」「その子のよさ」に気付くという多様性を認め合うようにする。

生活科や総合的な学習の時間を中心に「地域」「福祉」「環境」「共生・自然愛護」のテーマについて学習する。教科横断的な学習計画を立て、ESDで重視したい能力・態度を明確にして単元構想をすることや縦割り活動を継続し異学年での交流することにより、持続可能な社会づくりの構成概念を学ぶ。